

女性のもつ生命力の強さには、感嘆、感服、敬服！

友人が障害児の放課後ケアに取り組んでいる活動をNPO申請していたが、今月半ばに認定を受けたとの連絡があった。

この友人とは、職場は異なっていたが同じ職種で、重症児療育の開始当初からの仲間であった。

友人は数年後結婚で退職し、ご主人の転勤で遠く離れたが、お付き合いはずっと続いていた。

ご主人の転勤で地元に戻り、友人は、やはり障害児問題と離れられないのか、障害児の通園施設や放課後ケアを手伝っていた。

数年前からは、気の合うお仲間と共に、自分たちで障害児の長期休暇期間のケアの活動を続けてきた。

その経緯の中で、行政から常設の放課後ケアの空白地域（宮城野区福室）での活動を依頼され昨年から活動していた。

常設活動の場を得たことから、また、行政からの補助を受け易くするためにもNPO「つばめっこ」の申請をしたようであり、「口だけでもいいから」と声をかけてくださり、理事としてお手伝いすることにした。

それにしても、この友といい、お仲間といい、家庭の主婦をしながら、また、それなりのお歳（失礼、m(\_ \_)m）にも拘わらず、この生命力というかエネルギーには、感嘆、感服、敬服！

それだけに、「手伝うように」との声かけにはノーとは言い難い(^o^)

他にもNPOを立ち上げたり親御さんたちをリードしてきた素敵な女性にたくさん出会って来たが、どうしてこうも女性たちはいつまでもたくましく、強いのかなあ。

ふと、ある人の「女性の生命力は、本来生物学的にも男性より強いもの。だから、社会的に男性は強いものということにしておかないと、世の中、バランスが取れないから。」との言葉を思い出した。

正に、「しかり！」と、この歳になって納得！

自分は口だけのお手伝いの身だけになおのこと、学童放課後ケア等に関する情報、知識、知恵等の提供で、男性としての強さカバーのために応援をよろしくお願いしまあ〜す！（^\_-）

早速ですが、放課後ケアは、小学生と中・高生は制度的に別物なので、同じ建物内で一緒では不味いとの行政からの指導とかで、もう一件物件を探しているとか。

何でこんな面倒なことになるのか、何か知恵がないかアドバイスください。

阿部幸泰 （2007年1月28日 記）